

| 一次研究用フォーム | | データ記入欄 | |
|------------|---------------|--|---|
| 基本情報 | 対象疾患 | 基底細胞癌 | |
| | タイプ | | |
| タイトル情報 | 論文の英語タイトル | Basal cell carcinoma of the head and neck: Identification of predictors of recurrence | |
| | 論文の日本語タイトル | 頭頸部基底細胞癌における再発危険因子の同定 | |
| 診療ガイドライン情報 | ガイドラインでの引用有無 | 1.有り 2.無し (1) | |
| | ガイドライン上での目次名称 | BCCCQ18-7 | |
| 書誌情報 | エビデンスのレベル分類 | I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ IV ） | |
| | Pubmed ID | 10743767 | |
| | 医中誌 ID | | |
| | 雑誌名 | Ear, Nose & Throat Journal | |
| | 雑誌 ID | | |
| | 巻 | 79 | |
| | 号 | 3 | |
| | ページ | 200-202 | |
| | ISSN ナンバー | pISSN: 0145-5613 | |
| | 雑誌分野 | 1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1) | |
| | 原本言語 | 1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2) | |
| 発行年月 | 2000 | | |
| 著者情報 | | 氏名 | 所属機関 |
| | 筆頭著者 | Bumpous JM | University of Louisville School of Medicine |
| | その他著者 1 | Padhya TA | |
| | その他著者 2 | Barnett SN | |
| | その他著者 3 | | |
| | その他著者 4 | | |
| | その他著者 5 | | |
| | その他著者 6 | | |
| その他著者 7 | | | |

| | | | |
|----------------|---|---|--------------------|
| 一次研究の 8項目 | 目的 | 頭頸部基底細胞癌における再発危険因子を同定する | |
| | 研究デザイン | 後ろ向きコホート研究および症例対照研究 | |
| | セッティング | 米国の2総合病院（大学の関連病院） | |
| | 対象者 | 初回治療の頭頸部基底細胞癌 165 例 | |
| | 対象者情報（国籍） | 1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず（3） | |
| | 対象者情報（性別） | 1.男性 2.女性 3.男女区別せず（3） | |
| | 対象者情報（年齢） | 1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず（14） | |
| | 介入（要因曝露） | 年齢、性別、治療前危険因子、病変数、部位、組織型、切除法、再建法の各因子と再発率との関連を統計学的に検討 | |
| | エンドポイント（アウトカム） | エンドポイント | 区分 |
| | 1 | 再発（フォロー期間 18 ヶ月） | 1.主要 2.副次 3.その他（1） |
| | 2 | | 1.主要 2.副次 3.その他（ ） |
| | 3 | | 1.主要 2.副次 3.その他（ ） |
| | 4 | | 1.主要 2.副次 3.その他（ ） |
| | 主な結果 | 18 ヶ月のフォロー期間において、165 例中 23 例（14%）が再発。単変量解析では男性（ $p<0.01$ ）、術前危険因子（悪性腫瘍歴、放射線治療歴、瘢痕、色素性乾皮症、基底細胞母斑症候群）の保有（ $p<0.05$ ）、多発病変（ $p<0.01$ ）、組織型（硬化型、basosquamous、 $p<0.05$ ）の 4 因子が有意に再発率が高かった。これらを含めた多変量解析では術前危険因子と多発病変が最も有意な危険因子であった。組織型では有意差がでなかった（ $p=0.06$ ） | |
| 結論 | 再発危険因子の同定についての今回の結果は、術前におけるリスク評価に重要である。 | | |
| 備考 | | | |
| レビューワー コメント | レビューワー氏名 | 竹之内辰也 | |
| | レビューワーコメント | エビデンスのレベル分類（IV） 単変量のみでなく多変量解析を行ってはいるが、統計手法についての記載が乏しいために、客観的な評価がしづらい。 | |